



目 次

新支部長ごあいさつ	(76、H元年卒)	畠山 伸二	1
前支部長ごあいさつ	(85、H10年卒)	高瀬 明子	2
総会での話題提供「PMDAの概要と私の業務について」			
	(109、H28年卒)	丸茂 勇輝	3
寄稿 社会人になって	(109、R4年卒)	田澤 裕太	3
寄稿 色々な縁を引き継いで・・・これからの農業への試み			
	(57、S45年卒)	北野 栄一	4
寄稿 剣道がもたらす人生の輝き	(106、H31年卒)	佐藤 清史	6
寄稿 雪の日に、あの頃を想う	(86、H11年卒)	鶴飼 政志	8
寄稿 丙午の還暦を迎える	(77、H2年卒)	石橋 徹	9
『70代は人生の黄金期～ 95歳が実践した「健康貯蓄」と「枯れない脳」』のご紹介			
	(60、S48年卒)	中西 憲幸	10
ゴルフクラブ便り	(56、S44年卒)	金 知出	10
100字通信			11
令和7年度 首都圏支部活動報告・支部役員			12
新役員ごあいさつ			13
令和7年度会計報告、令和8年度予算(案)			14
令和7年度 支部年会費納入者一覧			15
編集後記			18
令和8年度首都圏支部総会案内			19
令和7年度首都圏支部総会集合写真等			最終ページ



つながりを大切に、これからの首都圏支部へ

富山薬窓会首都圏支部長（㊟、H元年卒） 畠山 伸二

2025年6月に開催されました富山薬窓会首都圏支部総会において、新たに支部長を拝命いたしました畠山伸二です。長い歴史と伝統を持つ首都圏支部の舵取りを担うことになり、身の引き締まる思いとともに、諸先輩方が築いてこられた温かなつながりを大切に受け継ぎ、次の世代へとしっかりとつないでいきたいという決意を新たにしております。

首都圏支部には、大学を卒業されて間もないフレッシュな皆さま、第一線で活躍されている中堅世代、そして長年支部を支えてこられた大先輩まで、幅広い世代の会員が所属しています。世代や立場を越えて気軽に集い、互いの近況を語り合い、時には励まし合える——そんな「帰ってこられる場所」であることが、薬窓会の何よりの魅力だと感じています。私自身、これまで多くの先輩方に温かく迎えていただき、そのつながりに支えられてきました。今度は私が、その輪をさらに広げ、より多くの方にとって心地よい居場所となるよう努めてまいります。

首都圏という地域は、仕事や生活環境の変化が大きく、人の動きも活発です。その中で、同じ学び舎を出た仲間とつながり続けることは、思っている以上に大きな力になります。久しぶりに顔を合わせるだけで学生時代の空気に戻る安心感や、同じ道を歩んできた者同士だからこそ分かち合える思いがあります。そうした“ゆるやかなつながり”が、日々の励みになったり、新しい視点をもたらしてくれたりするのではないのでしょうか。

私たち薬窓会首都圏支部では、継続的に若い世代の参加促進や、会員同士が交流しやすい場づくりに向けた取り組みを少しずつ進めています。支部活動は決して堅苦しいものではなく、気軽に参加でき、ふとした会話から新しい学びや刺激が得られる場でありたいと考えています。総会や懇親会に加え、世代を問わず参加しやすい企画や、日常の延長線上でふらりと立ち寄れるような集まりなど、皆さまが自然とつながれる機会を増やしていきたいと思っています。小規模な交流会やテーマ別の集まりなども検討し、より多くの方が参加しやすい環境づくりを進めてまいります。

また、首都圏で活躍されている会員の皆さま同士が、ゆるやかにつながり続けられるよう、情報発信にも力を入れてまいります。会報誌『首都圏遠久朶』はもちろん、日常的な連絡や活動報告など、支部の動きをより身近に感じていただけるよう工夫を重ねていきます。小さな取り組みの積み重ねが、支部全体の活性化につながると信じています。

最後になりますが、支部長としての私一人の力では、支部の未来を切り開くことはできません。会員一人ひとりの参加や声が、支部の活動を豊かにし、次の世代へとつながる力になります。どうか今後とも、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。そして、皆さまと直接お会いし、笑顔で語り合える機会を心より楽しみにしております。

今後とも富山薬窓会首都圏支部をどうぞよろしく願いいたします。



4年間を振り返り、みなさまへの御礼

富山薬窓会首都圏前支部長 (㊞、H10年卒) 高瀬 明子

富山薬窓会首都圏支部会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より支部活動へのご支援ご協力を賜り、ありがとうございます。

令和7年度首都圏支部総会(2025年6月28日)にて2期4年の支部長の任を終え、畠山伸二さん(76回)へバトンタッチいたしました。コロナ禍の最中の令和3年度首都圏支部総会(2021年6月26日)で中西憲幸さん(60回)を引き継ぎ、オンライン配信の静かな会場からカメラに向かってご挨拶を差し上げてからの4年間は本当にあつという間でした。各年の主なトピックスと共に振り返ってみたいと思います。

2021年度：年会費増額の承認と役員の増員・若返りを図って引き継いでくださった中西さんのおかげで、103回～58回の幅広い年齢層の16名の役員による新体制が発足しました。緊急事態宣言などの行動制限が続く状況でなんとか同窓会活動を継続するための一つの方策として、Zoomによるオンライン形式の集いを複数回開催しました。カメラ越しに久しぶりに再会できた方も、初めましての方も、富山のつながりによって全国各地から和気あいあいと盛り上がり、オンラインのメリットも実感いたしました。

2022年度：総会は感染対策に配慮し会場開催を再開し、オンライン併用でハイブリット開催としました。引き続きZoomを活用し会場(お店)とのハイブリットの集いも行いました。富山大学卒業式での謝恩会は引き続き見送りとなり、当時の薬学部長の酒井先生のご厚意で卒業式にて首都圏支部の案内動画を映写いただき、新卒者への参加を呼びかけました。

2023年度：総会は会場とオンラインとのハイブリッド開催を継続し、終了後に短時間の交流会を設けました。新卒者にもご参加いただきとても嬉しかったです。新型コロナウイルスの5類感染症への移行を機に第3金曜夜の「三金会」も再開し、だんだんと以前の状況に戻って来ました。富山薬窓会の総会も対面開催が再開され支部長として初めて参加し、薬窓会や薬学部の状況の理解が深まり、意見交換のよい機会をいただきました。学位記交付式にて卒業生に直接首都圏支部を案内することが叶いました。

2024年度：総会は会場開催をメインとし、念願の懇親会もついに再開となりました。コロナ禍を経ても多くの方にご参加いただけ、ほっとしました。新卒者や若手のご参加も多く、懇親会には大学院生も参加され、2次会、3次会まで盛り上がりました。

2025年6月総会まで：富山大学の先生方のご尽力で「卒業祝賀懇親会」が開催され、卒業生と交流できました。その甲斐あり、首都圏支部総会・懇親会には多くの新卒者や大学院生、若手世代、一番上は42回先輩もご参加され、4年前とは異なり会場に大人数が集い楽しい時間を過ごせました。皆様のご参加、協力のおかげでコロナの時期を乗り越えて首都圏支部活動を継続することができ、使命は果たせたかなと思っております。本当にありがとうございます。

支部長として至らぬ点も多々あったかと思いますが、皆様の温かいご支援のおかげでなんとか4年間務めることができました。多くの貴重な経験は私にとってかけがえのないものとなりました。一緒に取り組んでくださった役員を始めとする首都圏支部の皆様、富山薬窓会の稲田会長、宮林副会長及び各支部長の皆様、富山大学理事・副学長の酒井先生、薬学部長の松谷先生及び薬学部教授の恒枝先生を始めとする教職員の皆様に心より御礼申し上げます。引き続き首都圏支部役員として、微力ながら首都圏支部そして富山薬窓会を盛り上げて行けたらと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

PMDAの概要と 私の業務について

(㊟、H28年卒) 丸 茂 勇 輝

本話題提供では、私の勤務するPMDAの概要と、自身が担当している業務についてご紹介します。まず、PMDAの基本情報として、主な事業内容や役割、医薬品業界における位置づけに触れるとともに、最近の動向や社会から求められている役割についても概説します。続いて、私が所属する部署の役割を踏まえながら、担当している業務の概要、日々の業務の流れ、業務の中で向き合っている課題について、具体的なエピソードを交えてお話しします。あわせて、業務を通じて感じているやりがいや難しさ、関係者との連携の中で意識している点についても率直にお伝えしたいと考えています。可能な範囲で情報をお伝えし、皆様にとってPMDA及び自身の業務を少しでも身近に感じていただくとともに、医薬品の品質確保や安定供給を支える立場への理解を深めていただく機会になれば幸いです。当日は、同窓会らしく和やかな雰囲気の中で意見交換を行い、相互理解を深める場にできればと考えています。

社会人になって

(㊟、R4年卒) 田 澤 裕 太

この度は、首都圏遠久朵への寄稿の機会を賜り、誠にありがとうございます。

私は令和6年3月に修士課程を修了いたしました、田澤裕太と申します。

学生時代は医薬品安全性学研究室（現・実

践薬学研究室）に所属し、橋本征也教授、田口雅登教授のご指導の下、研究活動に取り組みました。学部時代には「脂溶性カチオン薬物の腎排泄機構におけるプロトン対向輸送系の寄与」、修士課程では「抗悪性腫瘍薬ベネトクラクスの体内動態評価を目的とした臨床試験デザイン」というテーマで研究を行いました。

現在は製薬企業にて品質管理職として勤務し、バイオ医薬品の初期治験原薬に携わっております。GMP製造における分析業務に加え、GMP関連業務や分析課題に関する検討など、幅広い業務に従事しています。

入社1年目は、部署業務の全体像やGMPに関する知識を学びながら、各種分析機器の知識・技能を習得し、実際のプロジェクト業務にも参画しました。また、事業場内のジョブローテーション研修に参加し、培養・精製・分析各ラボの業務を経験することで、バイオ医薬品におけるモノづくりの全体像について理解を深めました。

2年目となった現在は、先輩方のサポートを受けながらプロジェクト業務の取りまとめや、他部署と連携して進める業務にも携わっています。さらに、出張や研修、ポスター発表など、さまざまな経験を積ませていただき、学びの多い充実した社会人生活を送っていると感じています。

学生時代の研究内容と現在の業務は直接的には関連していませんが、研究室で培った論理的思考力や英語力は、現在の業務にも活かされていると実感しています。また、学生時代に理不尽さを感じた経験や、困難な課題に対して諦めずに最後まで取り組んだ経験が、今の自分の支えになっていると感じています。

まだ社会人2年目で至らない点も多くありますが、大学での学びを糧に、日々成長しながら社会に貢献できるよう努めてまいります。

色々な縁を引き継いで・・・ これからの農業への試み

(67、S45年卒) 北野栄一

製薬企業に続き医薬領域に関連した幾つかの会社の運営に携わった後、「社会と個人の健康及びQOLの向上」に有益な商材の販売会社を経営し、その中で色々な方々と出会い、また幅広い領域の会合や展示会にも参加していました。

そんな中で2024年の秋に招待された会合において、偶然ある会社の社長と知り合いました。彼は20年近く発芽ニンニクの水耕栽培に取り組んできた方で、私が健康に関連した事業をしてきた事に大変に興味を持たれ、改めて情報交換の場を持つ事になりました。次回の面談時、彼の開発してきた発芽ニンニク(写真1)の水耕栽培の手法と意義について熱心に説明してくれました。話の中で私が富山大学卒であることを知り、不思議な縁を感じたようです。実は彼は富山で生まれ、学部は異なるが富山大学経済学部卒の後輩でした。これも所謂「袖擦りあうも他生の縁」なのかもしれません。



写真1

彼の開発したニンニクの水耕栽培の特徴は、今までのイメージとはずいぶん異なるものでした。

通常は広いビニールハウスにたくさんのパイプを巡らし、肥料を溶かした水をポンプで流すようなイメージですが、彼の方法は、①閉じられた空間の中(例えばアパートの一室でも可能で広い土地は不要)、②完全無農薬・無液肥でオーガニック志向、③特殊なポンペ(特許)を通した水を水槽に入れ、収穫するまで入れ替え不要。(写真2)



写真2

そして一番驚いたのは、商品が「発芽ニンニク」なので植え付けから5～7日で収穫出来るため、理論的には年60回前後も収穫出来るため、これがこの事業の利益創出の基盤です。

具体的に説明すると、栽培棚(写真3)は横1.26M、奥行60cm、高さ約1.8Mで、棚は3段あり、各段に3本の水槽を設置します。各水槽には100個の特殊な穴のあるフロート(特許)を浮かべ、その穴に1個ずつニンニク片を植えます。(写真4)

即ち1回の栽培で、1台の棚に9本の水槽が配置され、900個のニンニク片を栽培します。



写真3



写真4

1週間に1回栽培・収穫する場合、年間では52週なので、盆と正月は休むと50回の収穫が可能で、 $900 \times 50 = 45000$ の発芽ニンニクが生産されます。但し、栽培の過程で発芽不全や傷があるニンニクなどを除外するので、凡そ40000～42000個が販売可能と想定されます。20棚なら800000～840000個の生産量となります。

必要な作業は栽培に関しては、毎週初日に①ニンニク玉を割り、②薄皮剥きと底の蒂取り、③水槽の水張り、④フロートへの植え付けを完了し、2日目からはエアコンとタイマー（写真3）で温度・湿度・光量などの管理を継続し育成状況を観察して調整します。

収穫時には、①発芽ニンニクの検品と選別、②袋詰め、③発送、④書類の記録・保管などです。

以上のように比較的簡易な設備と作業なので、都市型農業の提案、農家の方の収入源の拡大、シャッター通りや過疎地の復興などへの貢献を模索しています。

この事業において重要なのは生産量（入口）と販売量（出口）のバランス・コントロールです。

栽培協力者にとっては、生産した「発芽ニンニク」を購入してくれる納入先の確保が重要です。

昨年に今までの交渉の成果として、大手レストランチェーンや大手販売流通業者との契約の目途が立ってきたので、それと並行して栽培協力者の開拓を推進しています。

さて昨年12月に、知人である街の市議員の方からお会いしたいとのメッセージが入りました。

それで今年の1月に品川でお会いしました。彼はなんと高栄養食品で人気の高い「マカ」の有機栽培をこの領域で有名な研究者の方とタッグを組んで、日本の農業の活性化を全国的に推進していく活動を一昨年からは開始してきました。マカを有機農法で栽培し、さらにサプリとして開発・販売していく計画との事です。最近は多くの農家の方々においては、「こめ作り」だけではなく、コスパも高く収益増大に繋がる“これからの農業”を模索しているようで、全国的に参加希望者が手を挙げてきています。

私も「発芽ニンニクの水耕栽培」を紹介したところ大いに興味を示され、今後具体的にコラボを進めていくことになりました。

この記事が皆様方の目に留まる頃には、発芽ニンニクである「レディガーリック™」が、

あるレストランチェーン店でメニュー表の中に入っているかもしれません。その節は、これがそうなのかと思い出していただければ幸いです。

剣道がもたらす人生の輝き

(◎、H31年卒) 佐藤清史

薬窓会の皆様、いつもお世話になっております。106回(2021年 修士課程修了)の佐藤清史です。社会人になって5年が立ち、時の流れの早さに驚いております。薬窓会の首都圏支部には2021年の新卒時から毎年参加させていただいているので、そろそろ顔馴染みになれていけばよいな、と思っております。

ところで私、6歳から剣道を習い始め、大学時代も剣道部に所属しておりました。その他のスポーツや習い事には一切目をくれず愚直に剣道を続けてきたのですが、社会人になったからとやめてしまうのはもったいないと思い、2025年4月に再び竹刀を握ることにしました。今回の首都圏遠久朵では、剣道をテーマに少々語らせていただきたく存じます。

大学の学部生時代、学業成績で見ると救いようのないバカだった私ですが、充実したキャンパスライフが送れたのは剣道があったからです。部活への真剣さと努力量からでは、学業の観点から見ると私は180°異なる人物像が描かれると自負しています。

医歯薬学部ではそれらの学部には所属している学生だけの大会がいくつかあります。これらの大会で団体優勝し、医療系学生チャンピオンになるという目標が学部生時代の私の生活モチベーションの全てでした。授業ではきちんとノートを取らないのに、剣道では日々の稽古・試合で出来るようになった点や克服

すべき点、何を長所として戦えるようにして試合を迎えるかなどを記載し論理性のある稽古の実現に取り組みました。仲間たちとどのような稽古が必要かを議論し部室で一晩明かしたこともありました。五福キャンパス剣道部の合宿に参加するなどきつい稽古も自身に課し、紙一重の試合でも集中力を維持できる精神力の養成にも取り組みました。それらの結果、西日本コメディカルという大会での個人準優勝が最高成績となりました。最も欲しかった団体でのタイトル獲得はならなかったのですが、仲間たちと走り抜けた大学の剣道部での経験は、今の自分の人格形成に大きく影響しています。ただ、やはり文武両道でないためですね。そこは大きく反省しています。

といった具合で、私の学生時代を語る上では剣道の内容が多くを占めるのですが、社会人になってからは剣道から離れておりました。正確には学部3年生時に研究室配属となってから離れていたもので、実に7年間あれだけ熱中した剣道が影すらもない日々が続きました。ふと、これでいいのかと思いました。今の人生、面白いかと。私はIQVIAソリューションズジャパンという会社で製薬企業特化のコンサルタントとしてご飯を食べさせていただいております。確かにコンサルタントとして働く日々は充実しています。ただ、剣道に夢中だったあの頃のように心が熱くなる活力あふれる人生が送れているかと問われると、首を縦に振れるかが疑問でした。

7年振りに竹刀を握ろう。2025年4月、そう決意しました。そこからは想像以上にエモーショナルな体験の連続でした。

とある社会人剣道サークルに連絡し稽古参加の了承を得て、リバイバル剣道1日目のこと。自分の体に覇気が宿る感覚、自分が“生

き返る”感覚。こんな言葉を真面目に言えてしまうほどの高揚感を感じました。身体のキレや攻め合いの感覚は現役時代からとてつもなく衰えておりましたが、活力の漲る感覚に打ち震えました。

リバイバル剣道から2カ月ほど経った頃、別のサークルにも参加しないかと声をかけていただきました。そのサークルへ参加すると、私の剣道への情熱はさらに高まりました。日体大をはじめ、剣道の強豪である高校や大学の出身者がゴロゴロ所属していたのです。大学で医療系学生のみでの大会を主戦場としていた私が渡り合える相手ではありません。しかし、そのような方たちと稽古できる機会を得たことにものすごく大きな挑戦心が芽生えました。

そしてさらに大きな出来事が私の情熱に油を注ぎます。関西医歯薬学生剣道大会で、久方ぶりにOB部門の団体戦が開催されるとの連絡がきたのです。この大会、東は富山県・西は岡山県くらいの範囲の大学が集結して競う大会なのですが、私が現役時代に参戦していた大会の中で、唯一医学部薬学部の混合団体が組める大会でした。したがって、富山大学医薬剣道部の最強オーダーで臨める大切な機会だったのです。しかし、前述の通り、この大会でタイトルを獲ることは叶わず、無念な思いを残していた大会でした。

現役当時に相棒のような存在だった医学部の後輩からLINEが届きました。

「先輩、これ出ましょう」。

彼は剣道が強く大学でも個人でインカレに出場するほどの実力者であり、医師となっても剣道を続けていました。そして同じく医学部の先輩（年次でも、剣道のレベルでも大先輩）を加え、3人で大会に挑むことになりました。エントリー後、選手名簿が大会運

営から届きました。これがかつての剣道への情熱を呼び戻す決定打になりました。エントリー大学も多く、またエントリー選手も医療系大会の中で名を馳せていた方々が中心で、どの大学もしっかり優勝を狙ってきていたのです。

絶対に優勝する、その思いで剣道に邁進する日々が始まりました。面をつけての稽古の量・強度は現役時代に及びません。だからこそ、より“小さな積み重ね”と“強者の研究”を重点的に行いました。仕事が忙しくても、飲み会の後でも、とにかく毎日公園でのトレーニングを欠かさないようにしました。深夜0時位に竹刀3本同時に持って素振りするなどしていたので、時々ま通りすぎる人たちから視線を感じることもありましたが（笑）。そして、暇さえあればYouTubeなどで有名選手の研究に取り組んだり、サークル内の強い選手の見取り稽古の集中力を高めました。それらにより、“基礎筋力”と“相手の動きを読む目”はもしかすると現役時以上の状態で試合に臨むことが出来ました。

結果、関西医歯薬学生剣道大会OB部門で団体優勝することが出来ました。特に決勝戦はメンバー一人一人が役割をこなし、つないで得た勝利で感動もひとしおでした。何より、相棒である後輩と時を超えて団体優勝の約束を果たすことができ、この感動はコンサルタントとして数年ぽっち鍛えた言語化力ではとても言葉にできません。

剣道はたった1年で、私の社会人生活に鮮烈な輝きを与えてくれました。驚いたことに、この活力は私の仕事へのモチベーションをも高めてくれました。剣道を再開したことによって、歯車が良い方向に噛み合いだしたのかもしれない。

仕事は人生を懸けた部活である。私は常々

このようなマインドで仕事に向き合いたいと思っていました。リバイバル剣道によって、この姿勢が自然に仕事で表現できるようになりました（大学時代、学業でも同じようにやれよとの声が聞こえてきそうですが...）。今の仕事好きなんだと再確認できるきっかけにもなりました。

仕事では2027年までに部署の“参謀”的ポジションを確立するという目標をもって取り組んでいます。部署単位での意思決定に関わる人材となり、10年後の医療業界の課題やニーズを見据え、新たなソリューションの開発やコンサルティングサービスにより深く参画したいと思っています。

そのための努力もまた、剣道で辿ってきたプロセスを再現したいと思っています。組織の参謀になる（＝剣道で言うところの大会優勝）というGoalの実現のために、Backcasting的に努力の方針を定めています。細かくは割愛しますが、実現のために磨くべき自分の武器（＝得意技）は何か、シニアプリンシパルをはじめ上位者（＝強い選手）からトレースすべきポイントは何かなど、剣道で行ってきたPDCAの在り方をもう一度見つめなおし、仕事にも活かしています。

さらに、大学時代に主将を務めた際、良きリーダーとは何かを深く考えさせられました。その時の経験が、現在プロジェクト単位でのマネージャーを担当する際に確実に活かしています。これからは、組織のマネージャーとしての在り方に昇華し、自身にとっての組織マネジメントの“型”のヒントも剣道から得ていきたいです。

「守破離」という言葉があります。武道を志すプロセスを表す言葉です。まずは師の教えを「守」り、次の段階では教えだけに固執せず殻を「破」り、最終的に師の教えから「離

れ自身のオリジナルを確立するというものです。自分の現在地は、剣道はより自由な目標設定フェーズへ、仕事はより中堅層へと移行していると思っています。「破」のフェーズに突入していることは明確であり、いい意味での“自分流”を模索していかなくてはなりません。剣道で得た学びと人生経験を糧に、これからも自分が歩むべき人生道を設計していきたいと思います。

雪の日に、あの頃を想う

（㊦、H11年卒） 鷓 飼 政 志

学生時代の先輩から首都圏遠久朶への寄稿依頼をいただき、この原稿を書き始めた。自宅のあるつくば市で昨晚から降り始めた雪は、今朝になっても降り続き、数年ぶりに10センチ近くの積雪となりそうだ。とはいえ、冬のあいだ毎日のように雪かき・雪下ろしをした富山と違って普段めったに雪が降ることもないので、おそらくこれが今シーズン最初で最後の積雪となり、もう1ヶ月もすれば、あちこちで春の訪れを感じられる季節になるだろう。

薬学部の修士課程を修了し、就職のために富山を離れ、関東に移ってきたのが2001年4月。今年の春であれからちょうど25年。我が家では、この春から3人姉弟の末娘が大学生活を始めるため、兄に続いて家を出る（この首都圏遠久朶が発行される頃には一人暮らしも始まっているはず）。自分が大学入学のために愛知の親元を離れ、見ず知らずの富山の地で新生活を始めたあの頃に、今の自分の子供たちが生きていると思うとなんだか感慨深い。そして、良き友人、先輩・後輩、恩師に囲まれて楽しい学生生活を過ごした自分と同

じように、それぞれの学生生活を存分に楽しんでくれればよいと強く願う。

同時に、ふらっと立ち寄ったバドミントン部の先輩たちに歓迎の食事やドライブ（という名の拉致？）に連れて行っていただいた入学初日の深夜、一人暮らしを始めたアパートに帰宅したときにみた、暗闇に点滅する留守番電話に表示された複数回の着信履歴と心配した様子の留守電メッセージを残した親の気持ちも、子供たちの今を自分の学生時代に重ね合わせるのと同じように、自分の今を当時の親に重ね合わせてみて、随分有難いものだったと今頃になって実感する。

突然、学生時代の同級生で同じように富山の雪を経験してきた妻が、降り続く雪を眺めながら、勤め先の薬局の雪の様子を見に行ってくると言い出した。とはいえ、車の屋根に積もった雪を自分で下ろそうともしない様子を見ると、これはどうやら、「雪下ろせ、よろしく頼む」という暗黙の命令のようである。

命令には従わなくてはならないので、原稿を書くのをおしまいにして、車に積もった雪を下ろしに行くことにする。そして多分そこでも、あの頃の事を思い出す。

丙午の還暦を迎える

(㊦、H2年卒) 石橋 徹

私が富山医科薬科大学に入学した昭和60年度、富山駅の改札を出て目に飛び込んできたのは、ただ広だけのバス停に笛の指示で無造作にバックするバスと、掘っ立て小屋のように低い建物だった。空気が澄んでいると感じたのを覚えている。学部、修士課程を過ごす間に街はみるみる変化したが、2年前の同窓会の折に降り立った富山駅の変貌ぶりに

は、改めて流れた月日の長さを実感させられた。

40年を振り返ると、学部3年は薬作（薬品作用学）をはじめ薬学専門科目が目白押しに進級の関門であったが、私は既に何1つ単位を落とすことができない背水の陣にあった。仲間からは進級は絶対無理と目されていたが、人生で最も勉強し、前後期の全ての単位を取得し奇跡の大逆転をした、はずだった…。3月下旬の春合宿中に、「掲示板の進級者名簿にお前の名前がない」と同級生から告げられた。学生課で確認すると前期に選択科目の一つが不合格だった。それまで友人たちに勉強を教えてもらい、助けられてきた甘さもあったのだと思う。そして努力は報われなかったが、「努力しなければ何も始まらない」と初めて思い起こした。この留年が修士課程に進むきっかけになり、2度目の人生で最も勉強し、修士課程に合格した。

修了後は国内製薬会社に入社し、後に「臨床薬理」と呼ばれる部署に33年間務めた。会社での前半には治療薬物モニタリング（TDM）を支援するソフトの作成と操作説明を行っていた。当時は、薬剤師からの直接の電話にも対応した。ある日の18時を過ぎた頃「透析患者の疾患が重体で危ない。透析後の用量をどうすべきか？」と電話があった。患者背景と薬物濃度のデータに基づくシミュレーション結果を情報提供した。しかし翌日の透析と投与前に患者さんが逝去されたとの報告を受けた。現在では当時よりも情報提供のルールが厳格化されているが、医療現場を肌で感じることができた。後半は開発化合物の臨床薬理試験及び第2相・第3相試験の計画や母集団薬物動態解析などの解析と用法用量設定のためのアウトプットが主な業務であった。業務量や開発スピードに対して極端に従事者が少

なく苦しかった時期、他部署の大先輩から「人生にそうそう修羅場はない。」の言葉にとっても励まされた。多くの同僚や先輩に助けられ充実した医薬品開発業務を過ごし、このまま定年を迎えるものと思っていたが、今から1年半ほど前、TDM対応の縁で、偶然が積み重なり大学薬学部教授の募集があることを知らされた。何一つ不満のない開発職を辞めることに迷いはなかった。開発に携わった薬を通じて数えきれないほどの患者を救ってきたという思いはあるが、これからの医療を担う薬学生を育成することは無限の医療貢献に繋がるからだ。

還暦という節目を迎え、「人生って運」だかなと思う。いい時も良くない時も繋がっていく先は未だわからない。投げやりな意味ではない。不運や理不尽、報われないことがあっても、仕方ないと流せる。だが運しだいの人生で幸運が巡ってくること、誰かが差し伸べてくれた手を逃さず掴むことには、「努力しなければ何も始まらない」と信じている。残り長くはないが、令和7年4月から拝命した日本大学薬学部で、学生の育成と薬学研究的発展に精進していく所存である。

『70代は人生の黄金期～95歳が実践した「健康貯蓄」と「枯れない脳」』

昨年紹介しました佐藤哲男様（第42回（昭和30年）卒業）の「メディカルトーク」は2月に150回連載となりました。同時に読み物として、70代は人生の黄金期～95歳が実践した「健康貯蓄」と「枯れない脳」を執筆されましたので、共有させていただきます。

佐藤様より掲載の許可を得て、URLとQRコードを掲示します。（©、中西）

https://redrb.heteml.net/satohtetsuo/mt_70s.html



ゴルフクラブ便り

〔1〕第104回レポート

2025年5月14日（水）紫C.C.（千葉県野田市）西コースで開催されました。

毎度の好天気で「真夏日」でした。これも参加者の普段の心掛けの良さの反映ですね！

今回は上田宗央さん（57回卒）と坂東裕志さん（78回卒）の初参加があり、歓迎ムードいっぱいでのスタートでした。

結果、なんとその上田宗央さんが優勝！そして坂東裕志さんがベスグロでした。

なんとも将に「薬窓会ゴルフコンペ」でした！

成績は下記の通りです。

優勝：上田宗央（57回卒）

第2位：藤村元成（57回卒）

第3位：石井誠司（58回卒）

ベスグロ：坂東裕志（78回卒）でした。

〔2〕第105回レポート

2025年10月8日（水）紫C.C. 東コースで開催されました。

昨年首都圏支部総会にて、ゴルフ同好会の紹介コーナーでの伊勢谷篤弘さん（47回卒）の長いゴルフ歴と強い信念で生涯2回ホールインを達成し、我が薬窓会ゴルフコンペには、平成4年より今回まで連続参加中とのスピーチは会場の皆様に深い感銘と尊敬の念を与え、大いに盛り上がりました。

その伊勢谷さんが、その「勢い」、「颯爽たる姿」そのままに、見事優勝！そしてなんと！ドラゴン賞まで獲得しました！

プレー同伴の石井誠司さん（58回卒）のコメント「伊勢谷さんのパワーフルなショットには感服です！90歳と言わず100歳の伊勢谷さんのプレーをみたいものです」同じく上田宗央さん（57回卒）は「上田には10年後の明確な目標が出来ました。ゴルフを続けることは言うに及ばずドラゴン賞を取る事です！」成績は下記の通りです。

優勝、ドラゴン賞：伊勢谷篤弘（47回卒）

第2位：金知出（56回卒）

第3位：石橋嘉夫（55回卒）

ベスグロ：上田宗央（57回卒）

熱気と興奮が充満の雰囲気です！

2025年12月記

（66、S44年卒 幹事 金 知出）

100字通信

89、H9年卒 宅和 知文

我が家にも受験の無い冬が訪れのんびり。今年の冬は滑っても良いので何シーズンかぶりのスノーボード旅行を計画。但し行くのは逆に一人になったため日帰りバスツアーかな？

90、S48年卒 中西 憲幸

昨年3月、南紀白浜のアドベンチャーワールドに行って、パンダを見てきました。その後、急に中国に返還されたのには驚きました。年末にまた行ったら、パンダ舎にレッサーパンダが走り回っていましたが、観客はいませんでした。

95、H10年卒 高瀬 明子

ご近所さんから我が家の小さな花壇のヤマボウシの赤い実を分けてもらえないか？と言われたことをきっかけに、果実酒が作れると知り初挑戦しました。11月初旬に収穫して漬け込み、2ヵ月後には美味しいお酒になりました。春は白い花が咲き、秋は赤い実を付け季節を感じさせてくれるこの木の楽しみがひとつ増えました。

96、H元年卒 畠山 伸二

午年の今年、無事に還暦を迎えます。とはいえまだまだ現役、元気に働き続けます。合間にはギターとバイクの趣味も楽しんでいきます。

98、H8年卒 鎌倉 昌博

都内には小鳥が結構おり、スズメも身近な隣人なんですよ。

東京に移住してきてから、朝早起きしての散歩が趣味になってきていますが、少し肌寒い中、「ちゅんちゅん」と元気に跳ねている様子を見て、ちょこっと元気をもらっています。

97、H22年卒 宅間祐太郎

今年富大時代の恩師がついに退官なので謝恩会に参加してきました。今の自分があるのは間違いなくその方のおかげなので感謝してもしきれないと思っています。来年から富大に行っても会えなくなると思うと寂しいです。

94、H9年卒 膝附 由香

秋の連休にものすごく久しぶりに白川郷に行ってきました。観光客たくさんいましたが、中国系5割、欧米系4割、日本人1割。店のメニューも英語表記ですっかりグローバル化しておりました。

⑥、H11年卒 前川 竜也

毎年、大阪の友人と白馬で合流しスキーを楽しんでいます。今年も2月に2泊3日で訪れました。外国人スキーヤーがとても多く、賑やかな雰囲気でしたが、いつものロッジのオーナー家族も変わらず元気で安心しました。

⑦、H2年卒 紺谷 徹

昨年、フルマラソン初体験。中学時代の同級生に誘われてエントリーした地元の富山マラソンを何とか完走。いや、20キロ地点の新湊大橋の途中から、両足が攣ってほとんど歩きなので、完歩。還暦の今年は、歩かず完走を目指すか、思案中。

⑧、S54年卒 道見 茂樹

今年も家庭菜園の話題です。最近は珍しい野菜、地方の野菜、種から育てるのを楽しみにしていて、昨シーズンはアップルベリー(ミニトマト)、スティックセニョール(茎ブロッコリー)、冬菜・雪菜(東北から長野)、ねぎみ大根(長野)などなど、どれもうまく育ちました。

⑨、H28年卒 丸茂 勇輝

何年も迷っていたのですが、3月に念願のロードバイクを買いました。手に入れた日に多摩川サイクリングロードに行き、風を切って走る気持ちよさに早く買えば良かったと思いました。春には桜並木を見に行きたいです。

2. 幹事会

令和7年4月より毎月1～2回、オンライン開催

3. 令和7年度薬窓会近畿支部総会

令和7年6月8日(日)

4. 令和7年度富山・石川合同支部総会

令和7年6月15日(日)

5. 令和7年度富山大学薬学部・大学院(薬学系)学位記交付式

令和8年3月24日(火)

6. その他

三金会

2～3か月毎に有志で開催

令和7年度関東越嶺会総会

令和7年9月20日(土)

第45回五福会

令和7年11月19日(水)(於:富山県赤坂会館)

総会参加者・年会費納入者 推移

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総会参加者 (人)	75	—	50	49	61	63	65
年会費納入者 (人)	286	258	245	221	215	222	214

令和7年度(2025年度) 首都圏支部活動報告

1. 令和7年度首都圏支部定期総会

令和7年6月28日(土) AP東京八重洲

令和7年度（2025年度） 首都圏支部役員

支 部 長：①⑥、H元年卒 畠山 伸二
副支部長：①③、S61年卒 阿部 浩之
①④、H9年卒 平岡 良隆
幹 事 長：①④、H9年卒 宅和 知文
副幹事長：①⑦、H2年卒 紺谷 徹
①⑦、H22年卒 宅間 祐太郎
役 員：①⑩、S48年卒 中西 憲幸
①③、H8年卒 鎌倉 昌博
①④、H9年卒 膝附 由香
①⑤、H10年卒 高瀬 明子
①⑥、H11年卒 前川 竜也
①⑩、H28年卒 丸茂 勇輝
監 事：①⑥、S54年卒 道見 茂樹

の大学で教育・研究に携わっています。3年前に製薬企業を退職して東京へ移り、その年に当時の支部長にお声がけいただき、富山薬総会首都圏支部の会合に初めて参加しました。それまでは関西在住だったため、関西支部の会合に時折参加しており、同窓のつながりの温かさを感じておりました。首都圏支部に参加するようになってからは、先輩方だけでなく同級生と再会する機会もあり、改めて同窓のありがたさを感じています。このたび首都圏支部の役員を務めることになりました。仕事の合間での関わりとはなりますが、微力ながら会員の皆様の交流の輪がさらに広がるようお手伝いできればと思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

新役員ごあいさつ

（①③、H8年卒） 鎌 倉 昌 博

83回卒生の鎌倉昌博です。今年度より新役員に加わらせていただきました。

首都圏薬窓会には20年ほど前から参加させていただいていましたが、仕事の関係でしばらく東京から離れていました。久しぶりに東京に戻ってきたところ、以前ともに活動していた現役員の方から声をかけていただいたことから、喜んで参加させていただきました。

この会は、普段の社会活動では構築できない人間関係を築くことができます。この会をより盛り上げることができるように頑張っていきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

（①⑥、H11年卒） 前 川 竜 也

86回卒の前川竜也と申します。現在、東京

令和7年度（2025年度）会計報告
 （令和7年4月1日～令和8年3月31日）

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金（普通預金）	2,047,370	2,047,370	
年 会 費	500,000	471,091	
総 会 参 加 費	300,000	273,000	
普 通 預 金 利 息	20	2,458	
そ の 他 （ 寄 付 ）	0	0	
合 計	2,847,390	2,793,919	

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総 会 費	500,000	615,150	
会 合 費 （ 幹 事 会 等 ）	20,000	7,000	
事 務 通 信 費	5,000	2,680	
同 好 会 補 助 費	40,000	40,000	
会 報 発 行 費	400,000	510,542	
出 張 費	80,000	80,067	
同 窓 会 事 務 局 費	66,000	66,000	
次年度繰越金（普通預金）	1,736,390	1,472,480	
合 計	2,847,390	2,793,919	

令和8年度（2026年度）予算（案）
 （令和8年4月1日～令和9年3月31日）

収入の部		支出の部	
項 目	収 入	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	1,472,480	総 会 費	390,000
年 会 費	500,000	会 合 費 （ 幹 事 会 等 ）	10,000
総 会 参 加 費	370,000	事 務 通 信 費	5,000
普 通 預 金 利 息	2,000	同 好 会 補 助 費	40,000
		会 報 発 行 費	500,000
		出 張 費	80,000
		同 窓 会 事 務 局 費	66,000
		次年度繰越金(普通預金)	1,253,480
合 計	2,344,480		2,344,480

令和7年度 支部年会費納入者一覧

(合計 214名)

※令和7年4月から令和8年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
37	昭和25	山口輝夫	50	昭和38	川田桂子	56	昭和44	金 知出
39	昭和27	米丸洋子	50	昭和38	輿水誠子	56	昭和44	深澤 宣
41	昭和29	上銘外喜夫	50	昭和38	定塚紀志子	56	昭和44	山本寿美子
42	昭和30	佐藤哲男	50	昭和38	高野祐子	56	昭和44	山岸悦子
43	昭和31	久郷正孝	50	昭和38	野中美代子	56	昭和44	山本 恵
44	昭和32	紙谷得子	50	昭和38	前田一郎	56	昭和44	横山司甫
44	昭和32	鈴木芳子	51	昭和39	島田庄蔵	56	昭和44	加藤正子
44	昭和32	高瀬清孝	51	昭和39	島田輝子	57	昭和45	天笠之珠子
45	昭和33	大郷利治	51	昭和39	宮城 淳	57	昭和45	伊藤要一
45	昭和33	佐藤池鶴子	51	昭和39	宮城征子	57	昭和45	北野栄一
45	昭和33	橋浦十八	52	昭和40	小野澤カツ子	57	昭和45	柴田千枝子
46	昭和34	齊藤諒三	52	昭和40	是枝 潤	57	昭和45	中島和彦
46	昭和34	結城澄子	53	昭和41	安西慶子	57	昭和45	長瀬政雄
47	昭和35	伊勢谷篤弘	53	昭和41	岩崎孝一	57	昭和45	服部 仁
47	昭和35	市中滋郎	53	昭和41	林 聰	57	昭和45	藤村元成
47	昭和35	梅原 弘	53	昭和41	曲淵徹雄	57	昭和45	本田伊都子
47	昭和35	上村恵子	53	昭和41	南 法夫	57	昭和45	松林(尾崎)久一
47	昭和35	京泉清男	53	昭和41	村上則彦	57	昭和45	奥村淳子
47	昭和35	小国益男	54	昭和42	小木曾周子	57	昭和45	古屋(小野里)典子
47	昭和35	須藤昌二	54	昭和42	佐藤和恵	58	昭和46	石井誠司
47	昭和35	関 誠	54	昭和42	庄司孝市	58	昭和46	石田行知
47	昭和35	野田久正	54	昭和42	庄司幸子	58	昭和46	上田宗央
47	昭和35	古川貞子	54	昭和42	長谷見蓉子	58	昭和46	穂苺 茂
47	昭和35	室生知子	54	昭和42	森川礼子	58	昭和46	松田閑枝
47	昭和35	安川椒子	54	昭和42	竹内美千代	58	昭和46	村田悦郎
48	昭和36	安宅久弥	55	昭和43	石橋嘉夫	59	昭和47	石田志津子
48	昭和36	油木劭之	55	昭和43	井上(飯沼)みどり	59	昭和47	駒田由美子
48	昭和36	川上 惇	55	昭和43	太田晴美	59	昭和47	清水善行
48	昭和36	川上芳子	55	昭和43	鈴木 隆	59	昭和47	白瀧義明
48	昭和36	久保一夫	55	昭和43	滝沢春美	59	昭和47	松本茂外志
48	昭和36	熊木健治	55	昭和43	檀原宏文	60	昭和48	大西美知子
48	昭和36	定留温子	55	昭和43	牧野由紀子	60	昭和48	田中加代子
48	昭和36	船場定信	55	昭和43	松野 萌	60	昭和48	田谷栄子
48	昭和36	前田伸子	55	昭和43	南 菖子	60	昭和48	末木愛子
48	昭和36	村杉和子	55	昭和43	奥村啓輔	60	昭和48	鈴木むつ子
49	昭和37	林 幸子	55	昭和43	山口節子	60	昭和48	中島徳子
49	昭和37	廣江光代	56	昭和44	加藤正子	60	昭和48	中西憲幸

回	年卒	氏名
60	昭和48	守屋 修
61	昭和49	梶谷早苗
61	昭和49	杉林堅次
61	昭和49	富永節子
61	昭和49	中村直隆
61	昭和49	和田健司
61	昭和49	富永英嗣
62	昭和50	杉山恭子
62	昭和50	西山信右
62	昭和50	萩野洋子
63	昭和51	荒牧すが子
63	昭和51	萩野幸司
63	昭和51	本郷富江
63	昭和51	和田仁美
64	昭和52	坂口一夫
64	昭和52	西山 祥
64	昭和52	真船英一
65	昭和53	渡辺茂美子
66	昭和54	鹿田史紀
66	昭和54	金子美代子
66	昭和54	金原祐吉
66	昭和54	川崎英之
66	昭和54	草柳淳子
66	昭和54	鈴木千世
66	昭和54	道見茂樹
66	昭和54	道見優子
66	昭和54	萩原いく江
66	昭和54	原 信行
66	昭和54	真船恭子
66	昭和54	宮田康子
67	昭和55	中村康夫
68	昭和56	木村須賀子
69	昭和57	小林真弓
69	昭和57	塚本尋子
69	昭和57	橋本文江

回	年卒	氏名
69	昭和57	野尻幸子
69	昭和57	竹内 誠
70	昭和58	浦本博志
70	昭和58	茂呂今日子
71	昭和59	大川恵子
71	昭和59	黒田豊志
71	昭和59	木暮政恵
72	昭和60	平松雄子
72	昭和60	信濃豊進
72	昭和60	根本 了
73	昭和61	阿部浩之
75	昭和63	池田 靖
76	平成元	朝倉 渡
76	平成元	石橋 徹
76	平成元	小林史明
76	平成元	畠山伸二
77	平成 2	紺谷 徹
77	平成 2	的場義典
77	平成 2	山本善一
77	平成 2	齋藤みのり
77	平成 2	織部幸子
78	平成 3	坂東裕志
78	平成 3	藤田智弥
79	平成 4	長縄正之
82	平成 7	海野春香
82	平成 7	鏑木淳平
83	平成 8	織田 聡
83	平成 8	東(葛西)美恵
83	平成 8	鎌倉昌博
83	平成 8	坂本晋也
84	平成 9	金子卓嗣
84	平成 9	ガブシ(羽生)明子
84	平成 9	遠藤(松村)久美子
84	平成 9	木村 徹
84	平成 9	石崎雅之

回	年卒	氏名
84	平成 9	正力美香
84	平成 9	宅和知文
84	平成 9	膝附由香
85	平成10	岡 常夫
85	平成10	堀口(高瀬)明子
86	平成11	鈴木智之
86	平成11	戸前昌樹
86	平成11	前川竜也
86	平成11	鶴飼政志
86	平成11	谷下田雄一
87	平成12	金本和美
87	平成12	森口博行
87	平成12	森口秀美
97	平成22	宅間祐太郎
99	平成24	今井亮太
105	平成30	宮下正也
106	平成31	福田拓己
106	平成31	佐藤清史
106	平成31	中島卓海
106	平成31	宮澤佑一朗
107	令和 2	小原春菜
107	令和 2	宮澤(北村)楓花
108	令和 3	山崎 航
109	令和 4	堀田朋弥
109	令和 4	田澤裕太
110	令和 5	鈴木清流
		現教員 酒井秀紀
		現教員 松谷裕二
		現教員 恒枝宏史
		富山薬窓会会長 稲田裕彦
		旧職員及び大学院修了生 中込和哉
		旧職員及び大学院修了生 根本信雄
		旧職員及び大学院修了生 竹口紀晃

— 首都圏支部年会費振込みのお願い —

皆様からのご賛同を得て、首都圏支部年会費の値上げに踏み切った2021年から5年が経ちました。減少の一途を辿っていた年会費納入者が昨年度増加に転じて喜んだのもつかの間、2025年度は前年度より8名少ない214名となりました。加えて、昨今の物価上昇に伴い会報発行費、総会運営に関わる会場費や懇親会費など殆どの費用が増加し、支出超過額は会費変更前の水準に戻っています。

本会ではできるだけ諸経費削減策を講じていますが、収入源は会費以外にはなく、本会運営の継続にはより多くの皆様からの会費納入によるご支援を必要としています。これからも役員一同、首都圏在住薬窓会員の皆様が気軽に集える会の運営に努力する所存ですので、皆様におかれましても、現状ご理解頂き、是非とも首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

同封のコンビニ用の振込用紙には振込手数料（250円）を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度2,000円が入金されることとなります。振込手数料はこれまで200円でしたが、コンビニの手数料改定のため250円に変更となりましたので宜しくお願いいたします。

なお、会費納入を銀行振込でも行って頂けるよう、口座情報を下記に記載しましたので、振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由に慣れている方、年会費の他にご寄付頂ける方は、是非ご利用下さい。

北陸銀行新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：普通2552140

年会費を振り込んで頂いた方は、本会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしく願い申し上げます。

✉ メーリングリストへの登録のお願い ✉

富山薬窓会首都圏支部では会員の皆様へのメールによるご連絡を推進しており、ご登録をお願いしております。総会や三金会などのご案内もご登録のメールアドレスに送信いたします。

この機会にぜひ、事前登録をお願い致します。右にあるQRコードをスキャンすると、富山薬窓会首都圏支部メーリングリスト登録画面になりますので、そこにお名前、メールアドレス、薬学部の卒業年（又は回）を入力してください。また、下記アドレスからも同じように登録できます。（既に登録いただいている方は再度の登録不要です。登録したかどうかよくわからない方は、重複してもまったく構いませんので、登録をお願い致します。）



<https://forms.gle/NLwy1BmSPUuPMZZ98>

登録いただいたアドレスは薬窓会首都圏支部からの連絡以外に利用せず、個人情報の管理には十分配慮いたします。ご協力を宜しくお願い致します。

— 編集後記 —

昨年の編集後記を見返していると、昨年と比べ今年の3月はだいぶ落ち着いた春なのかと思いません。東京の桜は例年よりも数日早い開花でしたが、皆さんはお花見には行きましたか？一方で心なしか今年は花粉量もすごいので、私を含め周りの花粉症患者は皆苦勞している印象を受けています。

さて、例年私は編集後記で野球の話ばかり触れていますが、例にもれず今年も話題にしたいと思います。今年は何んといってもWBC！残念ながら準々決勝で日本は惜しくもベネズエラに負けてしまいました。結果的にベネズエラが優勝したのでそこまで大きく落ち込むこともありませんでした。私は幸運にも予選リーグの日本対チェコ戦のチケットが手に入り、間近で周東選手の生内野安打、生盗塁、生ホームランを見ることができました。試合前の稲葉さんのタッチの生演奏も圧巻で、大谷選手の出場こそ見られなかったもののそれ以外は大変満足な試合でした。（8回裏でコールドにならないぎりぎりの大量得点も見ものでした）

今年度から薬窓会首都圏支部は高瀬さんが一役員に戻り、代わりに幹事長だった畠山さんが支部長に就任されました。また、役員にも新たなメンバーが2名加わり、新体制で今年度から動き出しています。引き続き首都圏支部を盛り上げられるよう精進してまいりますのでどうぞよろしくお願い致します。

（副幹事長 ㊟、H22年卒 宅間祐太郎）

事務局連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

（株）同窓会事務局：info@egaomax.com

電話：0120-10-9870

令和8年度（2026年度） 「富山葉窓会首都圏支部総会」のご案内

【日 時】

総 会：2026年6月27日（土）14:00～（開場：13:45～）

懇親会：2026年6月27日（土）16:30～

【会 費】8,000円（懇親会費込み）

社会人2～3年目の方：5,000円

社会人1年目＋学生：無料

事前に参加申し込みをURL又はQRコードからお願いします

<https://toyamayakusokai-shutoken2026.peatix.com/view>



【話題提供】『PMDAの概要と私の業務について』

丸茂 勇輝氏（第103回卒）

【場 所】

総 会：日比谷図書文化館 日比谷コンベンションホール（大ホール）

東京都千代田区日比谷公園1-4 地下1F

東京メトロ 丸の内線・日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分

都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分

東京メトロ 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口より徒歩約3分

JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分

懇親会：A LA TIENNE（アラティエンヌ）

東京都千代田区有楽町1-1-1 日本生命日比谷ビル1F

JR 有楽町駅 日比谷口 徒歩10分

地下鉄 日比谷駅 A13出口 徒歩1分

都営三田線 日比谷駅 A13出口 徒歩1分

* 同期・先輩・後輩の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。



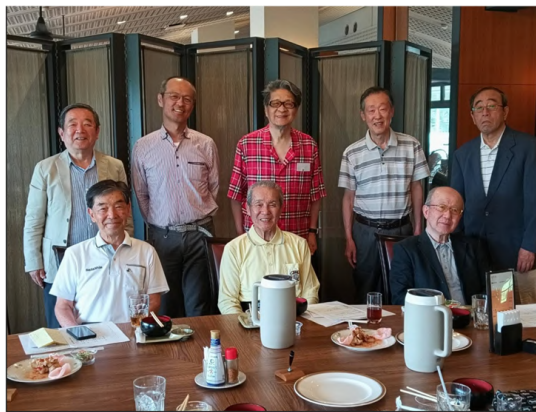


令和7年度首都圏支部総会（令和7年6月28日）



←総会后 二次会の最後

（二次会参加者全員での撮影機会を逃してしまい、すみません）



第104回ゴルフコンペ（令和7年5月14日）



三金会（令和7年5月16日）